

本センターの新しくなった研修室・機器の紹介

県総合教育センター カリキュラム開発部メディア教育担当

1 はじめに

新学習指導要領では、すべての校種において、ICTの環境整備とコンピュータ等を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められ、環境整備だけでなく、教員のICTを活用した指導力の向上が急務となった。

県総合教育センターでは、将来を見据えたICT環境の整備を行い、平成30年度から最新のシステムが導入され、「新しい学び」を推進する様々な研修を行っている。

2 演習室・研修室の紹介

(1) C311・C411演習室



学習場面の变化を容易にし、実習や演習など様々な場面に対応できる演習室である。

机のレイアウト変更やタブレット端末・実物投影機から大型電子黒板への投影が可能で、大画面を見ながら協働学習ができる。



(2) ICT体験ルーム・相談室



メディア棟3階にあるICT体験ルームでは、電子黒板・デジタル教科書・Webカメラ・タブレット端末投影モニター・デジタル地球儀が設置され、研修の合間に自由に体験ができる。また、ロボット教材が導入され、プログラミング教育に関する演習ができるようになった。



その他、メディア棟2階情報教育相談ルームにはワークシート式アンケート作成・読み取り集計ソフトウェア「SQS」が設置されており、スキャナの使用も可能となっている。

3 おわりに

様々なICT機器が導入された本センターを多くの方々にご利用いただき、授業や校務でのICT活用や環境整備の参考にさせていただきたい。

問い合わせ 県総合教育センター
カリキュラム開発部メディア教育担当

TEL 043-272-2246

「第2次千葉県特別支援教育推進基本計画」及び「第2次県立特別支援学校整備計画」 ～共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進～

県教育庁教育振興部特別支援教育課

○第2次千葉県特別支援教育推進基本計画

この計画は、本県の特別支援教育の基本的な考え方と具体的な取組をまとめたもので、「第1次計画」の考え方を引き継ぎつつ、さらに障害のある子供たちが主体的に生きていくという考え方を進め、テーマを「共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進」としています。

基本的な考え方は以下の3つです。

＜基本的な考え方＞

- ・ 障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けて、その能力や可能性を最大限に伸ばす教育を目指します。
- ・ 障害のある幼児児童生徒が、地域社会の一員として積極的に活動し、豊かに生きることができる教育を目指します。
- ・ 障害のない幼児児童生徒が、障害者理解を深め、障害のある人と共に社会をつくるための基礎を培う教育を目指します。

この中でも、特に、障害のない子供が障害者理解を深め、障害のある人と共に社会をつくるための基礎を培う教育を目指すという考え方を新たに示し、共生社会の形成を目指していこうというものです。

計画の内容は、図1のとおりⅠからⅤまでの5つの重点的な取組で構成されています。

就学前から卒業期までの支援の充実を始めとして、連続性のある「多様な学びの場」を整備して支援を充実させることや、特別支援学校の整備と機能の充実、教員の専門性の向上など、それぞれの中で本県が特別支援教育により目指す姿を掲げ、その具体的な取組を進めていきます。

これらの重点的な取組に加え、今日的な課題である新学習指導要領を踏まえた、通常の学級における障害のある児童生徒への

Ⅰ 早期からの教育相談と支援体制の充実

Ⅱ 連続性のある「多様な学びの場」と支援の充実

Ⅲ 特別支援学校の整備と機能の充実

※第2次県立特別支援学校整備計画

Ⅳ 卒業後の豊かな生活に向けた支援の充実

Ⅴ 特別支援教育に関する教員の専門性の向上

図1 重点的な取組

指導の工夫・改善や、高等学校における特別支援教育の充実、特別支援学校の総合的な教育機能の充実、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした障害者スポーツ等の交流、学校における手話等の普及や多様な障害に応じた職員研修の充実などを織り込みながら展開していきます。

連続性のある「多様な学びの場」(図2)

これは、障害のある子供が、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するとともに、地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きることができるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など、連続性のある「多様な学びの場」を整備することにより、一人一人の子供がその力を発揮できる取組の充実を図っていくものです。

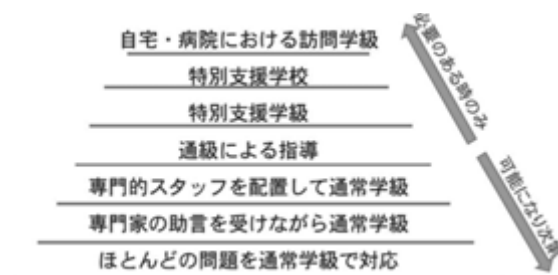


図2 連続性のある「多様な学びの場」のイメージ図

総合的な教育機能を有する特別支援学校

総合的な教育機能を有する特別支援学校とは、各特別支援学校が現在有している教育機能や支援機能を更に多様化し、総合的に担っていく学校のことです。これにより、各地域の特別支援教育の拠点として、知的障害に対応する学校に肢体不自由や病弱の障害種別を追加して複数の障害種に対応できるようにしたり、小・中学校等への支援機能として、弱視、難聴、肢体不自由、病弱・身体虚弱教育について「通級による指導」を展開する学校を増やしたりしていくものです。平成30年度現在8校であるところを平成33年度には13校に増やしていく予定です。(図3)

こうした総合的な教育機能を有する特別支援学校を県全体に展開していくことにより、障害のある子供たちが居住地により近い所で、「いつでも」「どこでも」「誰にでも」必要な教育・支援が受けられるようになることを目指していきます。

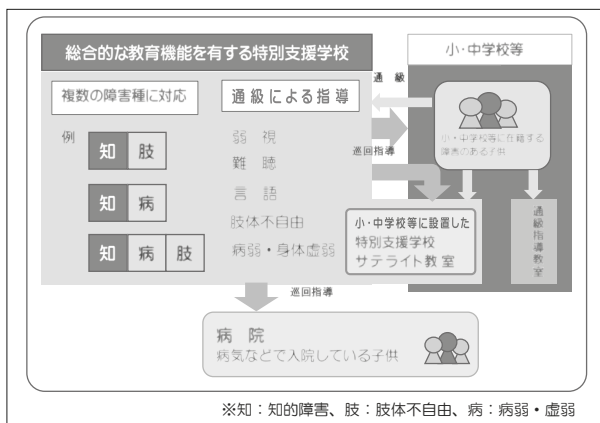
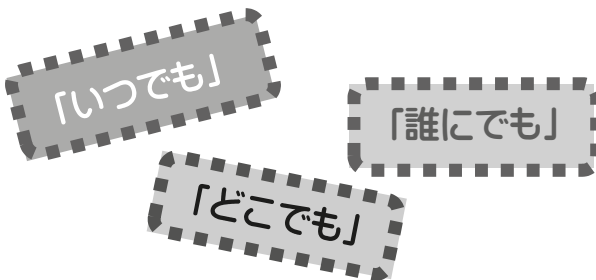


図3 総合的な教育機能を有する特別支援学校



＜第2次千葉県特別支援教育推進基本計画
・第2次県立特別支援学校整備計画＞

○第2次県立特別支援学校整備計画

「整備計画」は、前記の「推進基本計画」の中の県立特別支援学校の整備についてを取り出して、具体的な取組をまとめたものです。県立特別支援学校における児童生徒数の増加等による教室不足等の過密状況への対応を、県立学校及び市町村立学校の転用できる校地・校舎等の活用、校舎の増築等により進めていくものです。

おわりに

両計画は、平成29年度から33年度までの5年間を計画期間としており、今後は、この二つの計画を両輪とし、一人一人の教育的ニーズに応じた千葉県の特別支援教育を一層充実させていきます。

両計画とも概要版とともに、県教育委員会のWebサイトで公表しています。小・中学校、高等学校、特別支援学校等の先生方だけでなく、幼稚園等や就学前の施設の教職員の方々、そして何よりも保護者の皆様にもお読みいただけますよう、豊富な用語解説や19のコラムにより、わかりやすく解説しておりますので、ぜひご一読ください。

第2次千葉県特別支援教育推進基本計画

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shien/tokubetsushien/dai2ji-suishinkihonkeikaku.html>

第2次県立特別支援学校整備計画

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shien/seibikeikaku.html>

“今どき”の初任者研修は、昔と一味違う！

～Iceコミュニティの利用～

県総合教育センター研修企画部

1 「Iceコミュニティ」って・・・ナニ？

平成28年6月から、初任者研修、フォローアップ研修Ⅰ・Ⅱのみで使用している「校外研修のお知らせや要項、研修資料のダウンロード等」ができるツールである。



2 どんなふうに使っているの？

(1)連絡事項

「お知らせ」の欄に、次回持参すべきもの等を担当者書き込こんでいる。



(2)研修資料の準備、予習

「キャビネット」から、次回使用する資料等を研修生が自分でダウンロードする。事前に読めば、予習することができる。

(3)学んだあとは「振り返り」



研修の後は「内省」が必要である。各研修内容について、アンケートをとおして、自分の学びを振り返ることができる。

(4)日誌



その日の研修の様子や担当者からのメッセージ、情報などを伝えている。

(5)意見交換



担当者が「テーマ」を設定し、研修生同士で意見を出し合うこともしている。

3 ペーパーレス

自分のタブレット端末等にダウンロードすることで、研修の資料が確認できる。



4 時代

AIは生活の中に確実に浸透してきている。国では「Society5.0に向けた人材育成」について大臣懇談会が実施されている。「教育は最先端」でありたい。

「千葉県から全国へ」

～平成 29 年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展より～

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

県総合教育センターでは、毎年「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品しています。

平成 29 年度の全国展では、千葉県から出展された作品が数多く特別賞に輝きました。その中からいくつかを紹介します。

★第 54 回全国児童才能開発コンテスト 科学部門

全国連合小学校長会会長賞

「ゴーヤのつるの研究～5年間の研究で分かったこと～」

我孫子市立湖北台東小学校

6年 船本 聖己

審査評

ゴーヤのつるの動きは、明るさに関係しており、動かす成分は同種をさける事も実験した。データが豊富にそろえられている。

※他にも千葉県から2人の児童が入賞しました。



★第 61 回日本学生科学賞

入選 1 等

「真珠づくりへの挑戦～ピーカーの中で真珠は出来るのか～」

千葉市立稲毛高等学校附属中学校

3年 世古 瑞紀

審査評

真珠層（アラゴナイト）を作成でき、光沢を有する人工真珠まで進めている。考察もよく行い実験を進めている。



入選 1 等

「ウミホタルの光！Ⅱーサンプル解析と発光実験ー」

千葉県立生浜高等学校 チームピヨちゃん
代表 田中 悠誠

審査評

不可能とされてきた海水中のウミホタルを穏やかな刺激で発光応答させる方法を詳細にわたり実験を試みた結果を発表した。

※他にも千葉県から1団体と4人の生徒が入賞しました。



★第 76 回全日本学生児童発明くふう展 文部科学大臣賞

「さあ、どこに行く？ スロットマシン」
君津市立貞元小学校 1年 山本 射富人

審査評

磁石の力を利用し、回転部分を回転しやすくしたり、止めやすくしたりしている。操作部分の材質も工夫した実用的な作品である。

※他にも千葉県から17人の児童生徒が入賞しました。



詳しくは県総合教育センター Web サイト「優秀作品選集」を御覧ください。

また、平成 30 年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展一般公開は、10 月 13 日（土）14（日）の2日間、県総合教育センターで行います。力作が多数展示されますので、是非お越しください。

※審査評は「優秀作品選集」のもの